

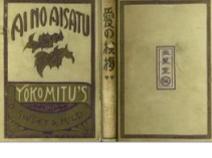
「激動の昭和文学 —横光利一、川端康成から坂口安吾、太宰治まで」 展示資料一覧

例)

番号	書影	著者名
		書名
		出版年
		出版社

1. 「新感覚派」の登場

-横光利一・川端康成ら

1		「文藝時代」創刊号
		大正13(1924)年10月(復刻版)
		金星堂
2		横光利一
		『愛の挨拶』
		昭和2(1927)年6月(初版)
3		横光利一
		『春は馬車に乗って』
		昭和2(1927)年1月(初版)
4		川端康成
		『感情装飾』
		大正15(1926)年6月(初版)
5		川端康成
		『僕の標本室』
		昭和5(1930)年4月(初版)
		新潮社

2. プロレタリア文学と転向文学

-小林多喜二・葉山嘉樹・中野重治ら

6		「文藝戦線」創刊号
		大正13(1924)年6月(復刻版)
		文芸戦線社
7		葉山嘉樹
		『誰が殺したか?』
		昭和5(1930)年1月(初版)
8		小林多喜二
		『不在地主』
		昭和5(1930)年1月(初版)
9		小林多喜二
		『オルグ』
		昭和6(1931)年7月(初版)
		戦旗社
10		中野重治
		『中野重治詩集』
		昭和10(1935)年12月(初版)
		ナウカ社

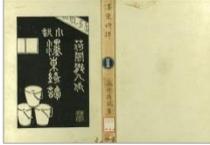
### 3. モダニズム文学と女性作家たち

-堀辰雄・梶井基次郎・林芙美子ら

11		稲垣足穂
		『星を売る店』
		大正15(1926)年2月(初版)
		金星堂
12		堀辰雄
		『幼年時代』
		昭和18(1943)年7月(再版)
		青磁社
13		宇野千代
		『白い家と罪』
		大正14(1925)年1月(初版)
		新潮社
14		林芙美子
		『野麦の歌』
		昭和11(1936)年3月(初版)
		中央公論社
15		岡本かの子
		『丸の内草話』
		昭和14(1939)年5月(初版)
		青年書房

### 4. 「文芸復興期」から戦争の時代へ

-谷崎潤一郎・永井荷風・火野葦平ら

16		谷崎潤一郎
		『春琴抄』
		昭和8(1933)年12月(初版)
		創元社
17		永井荷風
		『濠東綺譚』
		昭和12(1937)年8月(第4刷)
		岩波書店
18		徳田秋聲
		『仮装人物』
		昭和13(1938)年12月(初版)
		中央公論社
19		火野葦平
		『土と兵隊』
		昭和13(1938)年11月(初版)
		改造社
20		火野葦平
		『花と兵隊』新聞切抜
		昭和13(1938)年12月～14年6月
		「東京朝日新聞」夕刊

## 5. 戦後文学の出発

－太宰治・坂口安吾・大岡昇平ら

21		太宰治
		『桜桃』
		昭和23(1948)年7月(初版)
		実業之日本社
22		太宰治
		『人間失格』
		昭和23(1948)年7月(初版)
		筑摩書房
23		井伏鱒二
		『遙拝隊長』
		昭和26(1951)年4月(初版)
		改造社
24		坂口安吾
		『教祖の文学』
		昭和23(1948)年4月(初版)
		草野書房
25		大岡昇平
		『レイテ戦記』
		昭和47(1972)年1月(第7版)
		中央公論社